

ぎんれい会

平成二十九年十一月

達磨菊庚申塚を固めたり

主宰 細野恵久 福祉三期

霜落やほのか地熱の使い水

増田和子 食文一期

負け試合上る血圧鱗雲

改正節夫 国際三期

熱塊が海へと沈む秋入日

藤井秀重 生環四期

漁火の数よむ外湯冬近し

三枝邦光 美工五期

菊花展名塩和紙なる明り取り

國永靖子 音文六期

曜変の小さき宇宙星流る

猿橋二三雄 福祉八期

曜変の小さき宇宙星流る

加藤善巳 美工八期

秋霖やブルカの瞳底ひ無し

太田 實 国際十期

名の本散る坂を登れば幼稚園

大下絹子 国際十五期

星空を地上に映す露葎

中村建生 国際十五期

じっと待つ母の好みし熟柿まで

藤本武子 国際十五期

紅葉の隙間に光る蜘蛛の糸

山下 進 国際十五期

献体を決意する日や柿熟るる

許斐國照 食文十五期

一直線飛行機雲や天高し

小淵政子 健福十六期

秋時雨しのぎ飯屋の川の音

水島麗子 国際十六期

乗り合わず縁も馳走や鍋の舟

兼清久子 健福十七期

刀剣の摘花は五本菊人形

宮本公子 健福十七期

松ぼくりお手玉になり数へ唄

沖本先辺子 国際十七期

夕日さへありがたきこと秋遍路

香春早苗 国際十七期

寒風へ気を吐く禰宜の水垢離

仲田慎輔 国際十七期

秋の歌みんなかなしいあたたかい

中村富美子 国際十七期

ひとり居のガランと冷えて火を点す

宮本眞貴子 国際十七期

行く秋やふる里遠き道祖神

江間れい子 園芸十七期

落葉踏む音の軽さよ女坂

小栗恭子 健福十八期

笠雲のかかる頂きぶな紅葉

潮江敏弘 健福十八期

恋々と秋の湊の防人碑

野見山剛

健福十八期

縁石に集まり延びる落葉道

大山吉春

国際十八期

うそ寒や外れ馬券の紙吹雪

今井義和

美工二十期

天高し藍の奥なる神の黙

尾崎育久

美工二十一期

紅葉且つ散る法然の苔の径

黒木早苗

食文二十一期

畦に座し鎌で柿剥く小昼かな

宮脇暁美

食文二十一期

第二百四十三回ぎんれい句会（十一月十日開催）より